



# 民児協いばらき

☆民生委員・児童委員バッジはしあわせのクローバーに「み」の文字と双葉で鳩をかたどり愛情と奉仕を表しています

2011年(平成23年)1月15日 第66号



跳躍の一年 卯年

押久保忠夫 前編集委員 撮影

## 目次

- 新年あいさつ（会長）…………… 2
- 第29回県民生委員児童委員大会…………… 2
- 新年あいさつ（知事）…………… 3
- 全国民生委員児童委員大会に参加して …… 3
- 主任児童委員研修会に参加して…………… 4
- 相談技法研修会に参加して…………… 4
- 退任にあたって…………… 5
- 地区民児協だより
  - ・ 城里町…………… 6
  - ・ 潮来市…………… 6
  - ・ 龍ヶ崎市…………… 7
  - ・ 筑西市…………… 7
- 事務局だより…………… 8
- 編集後記…………… 8

第2次 民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動 展開中

# 新年のごあいさつ



県民児協会長 高木彦治

初春を迎え、おめでとございます。

昨年十二月の一斉改選に伴い、県内の三分の一の民生委員児童委員が活動等と想い出を残し退任され、新任民生委員児童委員が新たに福祉のボランティアとして就任されました。

新任の委員さんは、期待と不安を抱き、新年を迎えたことと思います。今日、民生委員児童委員としての活動は、発足当時より大きく間口が広がり、まさに、乳幼児から高齢者まで、地域福祉のキーパーソンとしての活動が期待されておりです。

子育て支援・生活弱者への相談・独居老人の見守り・不登校や児童虐待の防止・社協活動の協力・家庭内暴力や虐待防止・高齢者に対する犯罪被害の防止等々、多くの課題があります。

新任民生委員児童委員は、再任された委員と連携・協働して、困

難な問題に一人で悩むことなく対処することが重要です。今年一年経験を積み活動することを願っております。

昨年の茨城県民生委員児童委員大会で申し上げた八つの約束、「発見・声かけ・家庭訪問」「住民同士をつなぐ」「子育て家庭を支える」「住民の立場に立つ活動」「生活状況把握と守秘義務」「専門職・実践者をつながる」「地域を耕す」「仲間での活動する」の実践が期待されておりです。

今年一年の活動方針として、是非実行していただき、「地域の頼り人」として、人々の心身の支えとなつていただきますようお願い申し上げます。これが全民児連の活動指針、「広げよう 地域に根ざした思いやり」に添うものと思えます。結びに今年一年、充実した活動を祈念し、あいさつといたします。

## 第二十九回茨城県民生委員児童委員大会が開催される

県民児協前評議員・前編集委員 初田義雄

周辺の木々も色づき穏やかな小春日和りの十一月十九日、茨城県民生委員児童委員大会が、県民文化センターにおいて、千三百余名の参加を得て開催されました。

大会は、高木会長の主催者挨拶の後、顕彰が行われ、県民児協会長表彰四十四名、全民児連会長表彰百三十二名、優良民児協一団体がそれぞれ受賞しました。

来賓祝辞、受賞者代表謝辞に続いて、最後に大会宣言が満場一致で採択されました。

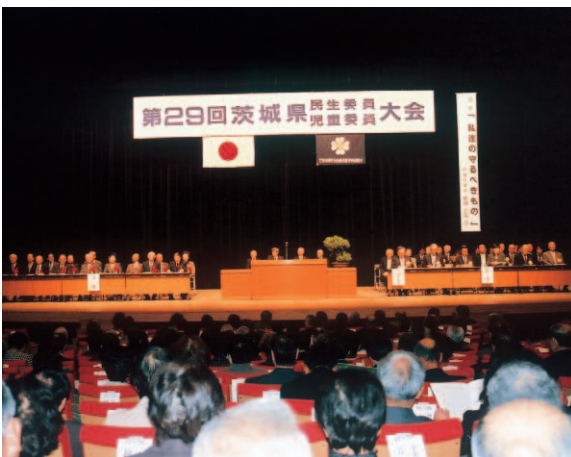
休憩後、参議院議員佐藤正久氏(元イラク先遣隊長としてイラク復興の支援に尽力)の講演「私たちの守るべきもの」を聴きました。

情報もない未知の国イラクでの支援活動に携わったリーダーとしての体験をもとにさまざまな話をされました。イラクの活動では、

- ・リーダーたる者は、決断に迷いがあつてはならない。
- ・目線(気持)を相手に合わせる。
- ・相手の生活習慣・風習に溶け込んで行く努力も大切。

・支援活動を無事終えたのは、先輩達が築いてくれた功績が大きい。イラク人と一緒に働く大手日本企業の社員の信頼関係から多くの情報を得られた。

イラクの悲惨な現場を目のあたりにして、「私たちが守るべきもの」は「あたりまえの伝統と価値観を守ること」そして、自分さえよければでなく、父母・兄弟・姉妹・友達同士、礼儀を重んじ、勉学に励むことが大切である、と教育勅語の一部を紹介しながら話を結ばれました。





# 新年あいさつ



茨城県知事 橋本 昌

あけましておめでとうございませす。

民生委員・児童委員の皆様におかれましては、日頃から、地域住民の方々に対する様々な相談や援助活動を通して、社会福祉の向上に多大なご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、厳しい経済・雇用情勢の中ではありましたが、茨城空港が開港するとともに、生活大県づくりに向けた新たな一歩を踏み出すことができました。

本年も、経済・雇用対策に積極的に取り組むとともに、北関東自動車道の全線開通などを生かして元気な県づくりを進めてまいります。

また「生活大県」の実現に向けて、地域医療の充実や少子化対策、高齢者の健康・生きがいづくり、障害者の自立支援などに力を入れまますとともに、地球温暖化対策や

霞ヶ浦の水質浄化などに取り組んでまいります。

「いばらきづくり」の基本である教育については、理数教育の充実や国際社会で活躍できる若者の育成に努めてまいります。

さらに、激しい地域間競争に勝ち抜くため、広域交通ネットワークの整備や企業誘致、中小企業の振興、儲かる農業の実現、観光の振興などに力を入れてまいります。

民生委員・児童委員の皆様におかれましては、地域福祉の推進役として、本県の社会福祉向上のため、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

茨城県民生委員児童委員協議会のみますますのご発展と、皆様方の一層のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、新年のあいさついたします。

## 全国民生委員児童委員大会に参加して

県民児協理事 宮本 勇

第七十九回全国民生委員児童委員大会が平成二十二年十月二十八日(二十九日)に、松江市くにびきメッセを主会場に全国から三千八百六十余名が参加し盛大に開催されました。

一日目の式典は、島根県民児連会長の開会あいさつ、物故者への黙祷、全児連会長の式辞、主催者挨拶、全民児連会長表彰等の後、義肢装具士の中村俊郎氏(石見銀山資料館理事)より「人々に希望と笑顔を」ブレイス(支える)の竹取物語」と題しての特別講義がありました。

先生のこれまでの人生で、特に郷土を愛し、郷土特産物(竹)を愛し、竹材での義装具の製作についてのお話は、我々が活動するうえで心に留めておかなければならない重みがある、大変興味深い話でした。

二日目は十のテーマに分かれての活動交流会が行われ、私は「民生委員児童委員協議会の組織活性化のため」の民生委員児童委員同士のつながり、支え合い」に参加いたしました。

島根大学准教授の基調講演後、吉賀町・大田市大田地区・安来市の代

表による事例発表がありました。県境にあり広範な山間地帯で社会環境が変化するなかで、地域における福祉課題も複雑多様化しており、地理的な課題をかかえながら地域性または高齢化対応の問題を始め、より地域に根ざした活動に取り組む山間農村地区での福祉活動等活発な活動が展開されている事例は、今後の活動に大いに参考になる有意義なものでした。



## 平成二十二年度 主任児童委員研修会に参加して

県民児協児童福祉部会前委員 鈴木 木 龍 穂

去る九月十日、主任児童委員活動の一層の活性化を図ることを目的に、研修会が開催されました。主催者の挨拶に引き続き、「地域で守る子どもの人権」子どもを愛し守ることのできる社会を目指して」と題して、稲垣美加子淑徳大学准教授の講演を聞きました。講演の中で、現代社会は家庭内で孤立する家族・一緒に住んでいながら様々なことを共にしない(個食など)家族、人と人の関わりがなくなり、深刻化する虐待・子育て困難な親の増加、診断はついても支援のない発達障害児等々多くの問題を抱える家族が増えていることが話されました。

そして主任児童委員に期待される役割と機能として、声なきSOSにたどりつく活動、支援の求め方を知らない親に対し、お説教でなく寄り添い型支援、地域を巻き込む支援体制の構築が求められていることが話されました。

午後には県内6地区の代表者から「私の主任児童委員活動」の報告がありました。県内でも各市町村によ

り、独自の主任児童委員の活動があり、様々な試みを行っていることを知るとともに、県全体として、一つの方向性や基本活動があっても良いのではないかと思いました。「子育てサロンや子育て支援センター」などへの積極的な働きかけにより、子育ての良きパートナーとしての位置づけも必要ではないかと思えます。今回の研修会で、子どもを愛し守ることのできる社会の一員として、主任児童委員の役割を改めて考えさせられる一日になりました。



## 民生委員・児童委員のための

### 相談技法研修会〈事例研修〉に参加して

土浦市一中地区民児協副会長 杉 本 衣 代

全国から八十九人が参加した相談技法研修会が九月十五・十六日に船橋市で開催されました。

初日の演習は七・八人のグループに分かれて話し合い、結果が発表されました。老老介護・認認介護、同居高齢者、障害・母子父子・生保家庭、訪問拒否と安否確認の困難さ、どこまで民生・児童委員が介入するのか、慢性的な欠員といった課題について、地域差を超えて共有し合いました。二日目は、息子から虐待を受けている高齢の母が民生・児童委員・地域住民・行政関係機関と連携協働して、施設に入所するまでの実践事例研修で、奥川氏のスーパーバイズを受けました。相談技法については、対人援助に求められることとして、①民生・児童委員の活動領域・場のポジショニング②援助者としての自分の立場状況「私は誰に対して、どこで何をするか。どこまで責任をもてるのか」を意識しておく。②

どのような支援を、行政関係機関から受けられるかを分析理解しておく。

③対象者の問題点や悩みを、その人の生きている世界で理解する。④相談援助は、信頼関係に基づいた協働作業であり、相互交流の場であると認識する。⑤対象者に大きな不利益を与えないということと、相手の心の動きを感じ取るために、緊張して向き合う、それが「他者の人生に介入することへのエチケットである」などのアドバイスをいただきました。貴重な研修会に参加させていただきました。ありがとうございました。





# 退任された

## 県民児協

### 役員の方々

#### 退任にあたって



落合 勇

民生委員活動三十年長くもあり短くもあり、会長をはじめ県民児協の皆様方、事務局、先輩、同僚、多くの方々にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

「会う人もまたあう人も我が師匠」、いろいろな役をさせていただきました、成長させていただきました。

関東ブロック茨城県大会の成功をお祈りいたします。

#### 退任にあたって



橋本 重男

二十一年間、多くの先輩・同志の方々に出会い、恵まれた環境の中での活動は、すばらしい想い出がいっぱいです。職責を全うできたのも、めぐり合わせた皆さまの御蔭と感謝しております。私は今後も、地域で福祉ボランティアを続けて行くつもりであります。県民児協の益々のご発展と皆さまのご健勝をご祈念申し上げます。

#### 三十年をふり返って



鈴木 廣

委員の委嘱以来先輩同僚の指導協力に支えられ楽しい活動

でした。評議員、理事として、特に葉山での中央研修、関プロ、全国大会等十二年に渡り福祉活動の広さ、奥の深さ、山高海深のごとし奉仕と信頼関係にあると思います。少子高齢社会の進行複雑多様化のなか、更なる福祉の充実を願ひ、退任にあたり民児協の発展を祈念いたします。

#### 退任にあたって



黒田 光夫

多くの先輩・同僚の温かいご指導と友情に支えられ、県民

児協評議員、理事として思い出多い有意義な充実した活動を終えることができました。また、全国大会や関プロへの参加は終生忘れ得ない経験となりました。厳しい社会情勢の中、皆様のご健勝、ご活躍と県民児協の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。退任のご挨拶といたします。

#### 退任にあたって



七井 康彰

このたびの一斉改選により退任することになりました。在

任中は地域福祉の向上をめざし微力ながら活動してまいりました。その

間、皆様方のご指導ご支援に支えられて、職責を果たすことができました。たことを心から感謝申し上げます。県民児協の皆さまの一層のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます、挨拶いたします。

感謝の心で



福井 ふみ

県民児協の皆様には大変お世話様になり心より厚く御礼申

上げます。民児協の活動を通し、数え切れない人々との出会い、関わりあいの中で三十年の月日は、私にとりまして、沢山の想い出と大切な事を学ばせていただきました。共に喜びを得た時には本当に有難く幸せを感じました。

多くの方々のご指導、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。皆様のご健勝を祈念申し上げます。

#### 退任を迎えて



滝野 忠男

県民協の理事を拝命し、大した働きも

できずに退任を迎えることを誠に申し訳なく思っています。多くの人との出会いによって、自分の勉強をすることができました。二十六年間務めました民生委員の仕事との別れは、淋しさを感じますが、今までの経験を生かした人生をこれから送りたいと思っています。

退任にあたりお世話になりました皆様に感謝しつつ。

#### 退任にあたって



平塚 勇

県民児協の評議員・監事・理事として十二年間、多くの

皆様方事務局のご指導により職責を果すことができました。心から感謝とお礼を申し上げます。民生委員として十一期三十三年間、多くの方々とお会い活動することができました。皆様のご指導ご支援に感謝申し上げます。今後の民児協のご発展をお祈り申し上げます、退任のあいさつといたします。

#### 退任にあたって



岸 三男

退任にあたり、三十年間の活動の中で福祉対応に苦慮した

時、多くの仲間助けられ、無事職任を果たすことができました。また、全国大会の交流集會に参加し、活動事例の報告の中で、多様化した福祉課題の対応の難しさを痛感しました。その様な中での民生委員の対応には個々の対応でなく、定例会で事例の検討会を実施し、対応の共有を図る必要があると思ひます。最後に県民児協の益々の発展をご祈念いたします。

# 協 だ よ り

## 城里町

### 城里町民児協の活動について

城里町民児協前会長 磯部 長司

私達城里町民児協は、平成十七年二月一日に旧常北町、旧桂村、旧七会村が合併、城里町が誕生、これを機に成立しました。すぐに新体制を整え、協力の精神を活かし、それまで培ったきた各協議会の実績をふまえて活動の充実を図りました。民児委員の活動の理念、職務を再確認し、地域住民の生活状況の確かな把握と、必要な援助を実践目標としました。

このため、第一に月一回の定例会では特に地域での問題点、対応などを率直に発表する事例報告を重視して、委員全員で考え、解決への道を探りました。第二に五つの事項別委員会(生活保護、障害、児童福祉、母子、老人)を設置しました。各委員会が研修会を計画し、全員参加で研修を深めて活動の充実を目指しました。

第三に地区別懇談会(旧町村別)の委員に分かれて、少人数での情報交換を通して実態把握に努めました。

第四に町長、町福祉担当者による町福祉の実状と行政について研修を実施し、行政と一体化した民児委員活動を図り、第五に、他の協議会、組織との話し合いを実施、特に小中学校の問題には、学校訪問や先生との懇談会など積極的に取り組みました。

情報交換による実態把握、研修、積極的な意見交換を重視し、委員の共通理解を深めて、民児委員の活動の実践力を高めて来しました。

こうした活動の中、不登校、ひきこもりがちな独居老人は、大きな課題でしたが、実践が活かされ、解決への前進が見られました。これからもこの成果を活かし努力していきます。



## 潮来市

### 潮来市民児協の活動について

潮来市民児協前会長 長谷川 彌

潮来市は、茨城県東南部に位置し、平成十三年に潮来町と牛堀町とが合併し「潮来市」が誕生しました。人口三〇、四八八人、世帯数一〇、七九二世帯、高齢者数七、一二六人、高齢化率二十三・四％です。

潮来市民児協は七十二名(内主任児童委員四名)で構成されています。

「社会弱者を常に見守り、犯罪や事故にあわないうり取り組み活動を推進」「第二次民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動の推進」等を重点目標に掲げ、安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

災害時要援護者名簿の作成に当たっては、自主防災組織の区長会、福祉事務所、総務課交通防災担当との連携・協働を進めています。防災マップの作成も済み、災害時要援護者名簿の見直し、手上げ方式による調査に着手しようとしています。

潮来市防災訓練は毎年実施しています。各地区で民生委員・児童委員が核となり被害及び要援護者の安否確認をして、その結果を区長より災害対策本部に報告する仕組みになっています。

また、潮来市民児協では、本年度より「救命救急講習会」を消防署員ご指導の下実施しました。要援護者の安否確認が主務ですが、傷病者の手当にも余力があれば力を貸せるようにとの思いで、毎年自身を変えて実施していきたいと考えています。

そして、市議会傍聴と教育福祉委員会との懇談会を通して、災害時要援護者名簿の作成と防災訓練について、市当局との質疑応答により着実に前進していることはありがたいことと心強く受け止めています。





# 地 区 民 児

## 龍ヶ崎市

### 龍ヶ崎市民児協の活動について

龍ヶ崎市民中央地区民児協副会長 佐川 勝利

龍ヶ崎市は県南に位置し、面積は七八・二km<sup>2</sup>で内牛久沼が六・五km<sup>2</sup>を占めています。人口は、七万九千四五六人、世帯数は三、四一二戸です。市民は、十万人達成を心待ちにしていますが、新興住宅は毎年増える一方、人口は停滞状態です。世帯当たり人口は、二・六人と極度に減少し、逆に高齢者率が上昇しています。

このように人口増が停滞している中で、高齢者の増加は全国の問題でもあるが、当市の場合も開発により人口が増加したが、既に開発から三十年を経たニュータウンがシルバータウン化している地域もあります。私たちは、毎年行政からの依頼で高齢者等実態調査を行っています。調査対象者が六、八四四名、内一人世帯が一、四六三名。地域差が激しく、一三九

名を調査した委員もいて、ご苦労を掛けました。



なお、当市の民児協は、平成十三年十二月に単一民児協から中央、愛宕、西部、竜ヶ岡の四地区に分割してそれぞれ運営をしております。高齢化の問題と併せて、就職問題が厳しく生活保護や福祉に頼る人が増え、家庭崩壊等も起こっております。当市の民児協は、各問題に対して、委員が互いに協力し、市民のための民児協活動について定例会で意見交換を行っています。

平成年号	総人口(人)	高齢者人口(人)	高齢者率	90歳代(人)
8年	71,450	8,278	11.6%	163
13年	76,572	9,917	13.0%	277
18年	79,025	12,212	15.5%	509
22年	79,309	14,920	18.8%	642

## 筑西市

### 筑西市下館東部地区民児協の活動について

筑西市下館東部地区民児協会長 鶴見 重夫

下館東部地区民児協は、市立下館中学校区と下館小学校区、竹島小学校区を担当地区とし、委員数二十八名(主任児童委員二名)で構成している。住民の福祉に対するニーズが多様化してきている現状の中、人に優しい、温もりのある福祉社会の実現を目指し、自ら手を上げ声を上げたくても上げられないで、助けを必要としている人たちの、実態把握を積極的に行い、委員相互、行政等関係機関や地域との密接な連携を図りながら、社会福祉の増進に努めることを、活動目標に掲げている。

さらに児童虐待の問題が、社会的に取りざたされている昨今、地域の未来を担う子供たちを健全に育成する必要性に鑑み、担当地域の小・中学校との連携を深める取り組みを進めている。

今年度は、小学校登校時のあいさつ運動への協力、学校行事開催時の学校訪問等を通して、先生方や児童・生徒との接触を深め、相互に話しやすい雰囲気づくりに努めた。

特に定例会で小学校訪問を行い、授業参観後話し合いの場を設け、家庭における児童問題の改善を、民生・児童委員との連携により、効果的に図られるよう取り組むこととした。

私たちが住む筑西市も他に漏れず、高齢化が今後も増進していく中で、将来を担う子どもたちを地域全体で健全に育成していくために、民生・児童委員の立場でどのようなことができるのか、存在のあり方について地域のニーズに合わせて考え、取り組んでいきたい。



# 事務局だより

## ◎祝受章

この度、次の方々が栄えある叙勲・褒章を受けられました。心からお祝い申し上げます。(敬称略)

### ○叙勲

瑞宝単光章

印南 光子(つくば市)

### ○褒章

藍綬褒章

小室 正行(日立市)

## ◎退任

一斉改選により、次の役員及び評議員の方々が退任されました。長い間、誠にありがとうございました。

これからも益々ご健勝でご活躍されますよう、ご祈念いたします。

なお、落合勇、橋本重男の両副会長は、平成二十三年度に関東ブロック活動研究協議会が本県で開催されることや公益法人改革等の重要事項があることから、平成二十二年十一月に開催された理事会において、顧問に推薦されました。

(敬称略)

### ○理事

落合 勇(筑西市)

橋本 重男(ひたちなか市)

鈴木 廣(日立市)

黒田 光夫(土浦市)

七井 康彰(常総市)

福井 ふみ(笠間市)

滝野 忠男(取手市)

平塚 勇(常陸大宮市)

### ○監事

岸 三男(東海村)

### ○評議員

矢田部秀夫(水戸市)

瀬尾 政明(日立市)

小林 芳邦(取手市)

印南 光子(つくば市)

荒井 文雄(ひたちなか市)

木村 理子(常陸大宮市)

初田 義雄(那珂市)

木村 英男(坂東市)

安田 和夫(かすみがうら市)

久下 英一(桜川市)

小澤 淳(行方市)

佐藤 登(鉾田市)

磯部 長司(城里町)

柴田 郁子(東海村)

増子 久彌(大子町)

左近 政子(美浦村)

生井 敏夫(八千代町)

## ◎平成二十二年一斉改選の状況について

茨城県福祉指導課提供の資料によりますと、平成二十二年十二月一日時点における民生委員児童委員の定数及び委嘱数は、左表のとおりです。

今回の改選では、定数合計で十七名増えましたが、欠員が五十六名おり、早い時期に充足されることを期待しています。

なお、男女構成の割合は、全体で男性が四九・二%、女性が五〇・八%で、前回の改選時と大きな差はありませんでした。

また、表にはありませんが、新任、再任別では、全体で新任が二九・七%、再任された方が七〇・三%というところで、これも前回改選時とほぼ同じ割合でした。

区分	定数(H19)	委嘱数		欠員
地区担当	4,911 (4,893)	4,857		54
		うち男性	2,469	
		女性	2,388	
主任児童委員	325 (326)	323		2
		うち男性	82	
		女性	241	
合計	5,236 (5,219)	5,180		56
		うち男性	2,551	
		女性	2,629	

## 編集後記

一生懸命生きていれば、思うようにならないことは起こるものです。そのとき逃げずに問題と向き合い、自分が今、何を問われているのかを見つめ直せば、成長する絶好の機会にもなります。

確かに仕事も家庭も子育ても、思うようにはいきません。でも、私たちが生きていくこの瞬間、それは贈り物なのです。人生はいい贈り物だけではないけれど、自分の置かれていた今の状況を味わうことも、人間として大事なことなのではないでしょうか。

幸せとは、誰かのために何かをすること。自分で考えて実行すること。お年寄りに席を譲ってみるだけでもいいんです。与えることは奪われることではない。人に与えれば与えるほど、人からいただくことが多いのです。そんなことを学ばせてもらえるのが、福祉という仕事なのだと思います。

編集委員 長谷川 彌

発行人  
 財団法人  
 茨城県民生委員児童委員協議会  
 会長 高木 彦治  
  
 〒310-0851  
 水戸市千波町1918  
 茨城県総合福祉会館内  
 TEL 029-243-5361  
 FAX 029-243-5902  
 E-mail:iba-minjikyo@bz01.plala.or.jp